

第3次鎌倉市総合計画・第1期基本計画

後期実施計画 実績報告書

[平成13年度(2001年度)～平成17年度(2005年度)]

鎌倉市経営企画部経営企画課

はじめに

現在、本市では、第3次鎌倉市総合計画（平成8年度～37年度までの30年間）の基本構想に鎌倉のあるべき将来像として掲げた「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」の実現に向けて取り組んでおります。

そうした中、後期実施計画（平成13年度～17年度までの5年間）は、第1期基本計画（平成8年度～17年度までの10年間）に示された中長期目標や施策の方向を計画的・効果的に実施していくために必要な事業を明らかにし、予算編成及び事業実施の指針とするために策定されたものです。

本実績報告書は、この後期実施計画について、鎌倉市総合計画実施計画進行管理要綱に基づき、事業の着手から完了までの進捗状況を点検し、達成状況を報告するものです。

平成19年4月

経営企画部経営企画課

目 次

| | | |
|-------|--|----|
| 第 1 章 | 実施計画事業の実績概要 | 1 |
| 第 2 章 | 後期実施計画の特徴 | 3 |
| 第 3 章 | 実施計画事業を取り巻く財政状況 | 4 |
| 第 4 章 | 実施計画事業の執行状況 | |
| 1 | 計画実現の基礎条件(人口・土地利用・行財政・環境)の方針を実現する基本的事業 | 5 |
| 2 | 計画の分野別の方針を実現する事業 | |
| | (1)人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち | |
| | ①平和・人権 | 8 |
| | ②男女共同社会 | 8 |
| | ③国際化社会 | 9 |
| | (2)歴史を継承し、文化を創造するまち | |
| | ①歴史環境 | 10 |
| | ②文化 | 13 |
| | (3)都市環境を保全・創造するまち | |
| | ①みどり・公園 | 15 |
| | ②生活環境 | 20 |
| | ③都市景観 | 25 |

| | |
|----------------------------|----|
| (4) 健やかで心豊かに暮らせるまち | |
| ①健康福祉 | 27 |
| ②学校教育 | 38 |
| ③生涯学習 | 43 |
| ④青少年育成 | 46 |
| ⑤スポーツ・レクリエーション | 47 |
| (5) 安全で快適な生活が送れるまち | |
| ①地域安全 | 48 |
| ②市街地整備 | 53 |
| ③総合交通 | 59 |
| ④道路整備 | 61 |
| ⑤住宅・住環境 | 63 |
| ⑥下水道・河川 | 64 |
| (6) 活力ある暮らしやすいまち | |
| ①地域情報化 | 67 |
| ②産業振興 | 70 |
| ③観光 | 73 |
| ④勤労者福祉 | 75 |
| ⑤消費生活 | 76 |
| 3 基本計画の推進に向けて実施する事業 | |
| (1) 市民参画 | 77 |
| (2) コミュニティー | 77 |

第1章 実施計画事業の実績概要

後期実施計画は、当初276事業の実施を予定し、計画の推進に努めてきましたが、この間、景気の低迷やデフレ、雇用不安、恒久減税などの影響により、市税収入の減少は、策定当初の推計をはるかに超えたものとなりました。一方で、市民生活に密着した諸事業は、新たな事業も含め早急な実施が求められていることから、不要不急の事業の見直しや徹底した歳出の抑制と重点化により、実施計画事業に必要な経費を捻出することが必要となりました。そこで平成14年度に、計画の総体的な縮減と計画期間内における一層の緊縮財政を基本とした見直し(ローリング)を行い、平成15年度から17年度までの計画を変更し、改定後期実施計画をスタートさせました。

この見直し後の3年間で新たに37事業を追加したため、平成17年度末の事業数は313事業となりましたが、限られた計画自由財源の中で極力経費を縮減し事業の実施を図った結果、計画期間終了時には294事業について、おおむね計画どおりに実施しました。残りの19事業のうち、6事業は財政事情をはじめとした諸般の事情により、先送りせざるを得ない状況となりました。また、13事業については実施しないこととしました。

(内訳は、後期実施計画事業進捗状況一覧表をご覧ください。)

★ 後期実施計画事業 進捗状況一覧表

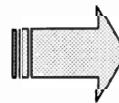
| 分野 | 基本課題 | 当初事業数 | 追加事業数 | 合計 (A) | 完了事業数 (B) | 継続事業数 (C) | 先送り事業 数(D) | 廃止事業数 (E) | 進捗率 (B+C/A-E) | ローリングにより削除した事業数 |
|--|---------------|-------|-------|-----------|--------------|--------------|---------------|--------------|------------------|-----------------|
| 基本計画実現の 基礎条件の基本 方針を推進する 基本的事業 | 人口 | 1 | | 1 | 1 | | | | 100.00% | |
| | 土地利用 | 1 | 1 | 2 | 1 | | | 1 | 100.00% | 完了事業の1件、廃止事業の1件 |
| | 行財政 | 3 | | 3 | 1 | 2 | | | 100.00% | |
| | 環境 | 3 | 1 | 4 | | 4 | | | 100.00% | |
| 人権を尊重し、 人との出会いを 大切にすまち | 平和・人権 | 2 | | 2 | | 2 | | | 100.00% | |
| | 男女共同社会 | 4 | | 4 | | 4 | | | 100.00% | |
| | 国際化社会 | 2 | | 2 | | 2 | | | 100.00% | |
| 歴史を継承し、 文化を創造 するまち | 歴史環境 | 9 | 1 | 10 | 2 | 8 | | | 100.00% | |
| | 文化 | 6 | 1 | 7 | 2 | 4 | 1 | | 85.71% | 完了事業の1件 |
| 都市環境を保全 ・創造するまち | みどり・公園 | 23 | | 23 | 1 | 21 | 1 | | 95.65% | |
| | 生活環境 | 16 | 4 | 20 | 4 | 12 | 1 | 3 | 94.12% | 廃止事業の3件 |
| | 都市景観 | 6 | | 6 | | 6 | | | 100.00% | |
| 健やかで心豊か に暮らせるまち | 健康福祉 | 41 | 10 | 51 | 4 | 44 | 2 | 1 | 96.00% | 廃止事業の1件 |
| | 学校教育 | 17 | 2 | 19 | 4 | 15 | | | 100.00% | |
| | 生涯学習 | 15 | | 15 | 1 | 13 | | 1 | 100.00% | 完了事業の1件、廃止事業の1件 |
| | 青少年育成 | 5 | | 5 | 2 | 2 | | 1 | 100.00% | 完了事業の1件 |
| | スポーツ・レクリエーション | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | | | 100.00% | |
| 安全で快適な生 活が送れるまち | 地域安全 | 23 | 5 | 28 | 7 | 21 | | | 100.00% | 完了事業の1件 |
| | 市街地整備 | 21 | 2 | 23 | 3 | 17 | | 3 | 100.00% | 完了事業の1件、廃止事業の3件 |
| | 総合交通 | 5 | | 5 | | 5 | | | 100.00% | |
| | 道路整備 | 8 | 4 | 12 | 2 | 10 | | | 100.00% | |
| | 住宅・住環境 | 6 | | 6 | 2 | 4 | | | 100.00% | 完了事業の1件 |
| | 下水道・河川 | 15 | 1 | 16 | 1 | 15 | | | 100.00% | |
| 活力ある暮らし やすいまち | 地域情報化 | 13 | 2 | 15 | 4 | 9 | | 2 | 100.00% | 廃止事業の1件 |
| | 産業振興 | 14 | | 14 | | 14 | | | 100.00% | |
| | 観光 | 5 | 1 | 6 | | 5 | 1 | | 83.33% | |
| | 勤労者福祉 | 1 | | 1 | | 1 | | | 100.00% | |
| | 消費生活 | 3 | | 3 | | 3 | | | 100.00% | |
| 基本計画の 推進に向けて | 市民参画 | 1 | 1 | 2 | | 2 | | | 100.00% | |
| | コミュニティー | 3 | | 3 | | 2 | | 1 | 100.00% | 廃止事業の1件 |
| 合 計 | | 276 | 37 | 313 | 43 | 251 | 6 | 13 | 98.00% | |

第2章 後期実施計画の特徴

後期実施計画は、保健・福祉・教育施策を総合的に推進し、だれもが健康で安心して暮らせるきめ細かなまちづくりを着実に進める「少子高齢化対策の推進」、環境への負荷が少なく持続的に発展できる環境自治体の創造に向けた「環境の保全」、地域の活性化や利便性、快適性など市民生活の向上をめざす「都市機能の充実」の3点を重点施策としておりましたが、改定後期実施計画では、鎌倉の未来を担う子どもたちと、その子どもたちを育てるファミリー層への支援のための「教育・子育て支援の充実」と、緑地の保全、公園の整備、ごみの適正処理と減量化・資源化、下水道施設の整備など、市民生活に最も身近な事業に取り組む「都市環境の保全・整備」の2点を重点施策としました。

※ 後期実施計画と改定後期実施計画の比較表

| ＜後期実施計画＞ | | ＜改定後期実施計画＞ | |
|----------|--|------------|---|
| 策定方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の緊急度・優先度を勘案 ・ 継続事業の再評価・再構築 ・ 民間活力の導入、P F I・広域連携の検討 ・ I T技術の積極的活用 ・ 施設・用地の暫定活用の検討 | 見直し方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業優先度の検討 ・ スクラップ・アンド・ビルドによる経費の確保 ・ 国県制度の有効活用 ・ 施設建設・大規模改修等の原則凍結 ・ 民間活力の導入、P F I・広域連携の検討 |
| 重点施策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化対策の推進 ・ 環境の保全 ・ 都市機能の充実 | 重点施策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・子育て支援の充実 ・ 都市環境の保全整備 |



第3章 実施計画事業を取り巻く財政状況

当初計画では、平成13年度から17年度までの収入額を見込むに当たり、歳入の根幹をなす市税は、景気の低迷やたび重なる減税措置などにより現状では大幅な減収になっているものの、今後、法人市民税を中心にわずかながら回復傾向に移行するものと予測して2,042億円(単年度408.4億円)と推計し、実施計画事業の推進に必要な計画自由財源を136億円(単年度27.2億円)と見込んでいましたが、実施計画所要一般財源は145億円(単年度29.0億円)であり、計画自由財源に9億円(単年度1.8億円)の不足が生じていました。

しかしながら、その後、予想以上に長引く景気の低迷やデフレ、雇用不安、恒久減税などの影響により、市税収入の減少は、策定当初の推計をはるかに超えたものとなり、改定後期実施計画では、平成15年度から17年度までの3年間の収入見込み額を1,193億円(単年度397.7億円)に修正し、それに伴い、実施計画事業の執行に必要な計画自由財源も29億円(単年度9.7億円)に減額をしたため、実施計画所要一般財源67億円(単年度22.3億円)との乖離は、3年間で38億円(単年度12.6億円)に拡大しました。この不足分を解消するため、人件費の削減や事務事業のさらなる見直しなど行財政運営の効率化や行財政改革を進めることにより歳出の縮減に努めました。(括弧内の数字は百万単位を四捨五入した概数です。)

後期実施計画と改定後期実施計画の単年度ベースによる経費比較表(概数) (単位:億円)

| 計画名 | 収入見込み額 | 計画自由財源 (A) | 実施計画所要一般財源 (B) | 不足額 (B-A) |
|-----------|--------|------------|----------------|-----------|
| 後期実施計画 | 408.4 | 27.2 | 29.0 | 1.8 |
| 改定後期実施計画 | 397.7 | 9.7 | 22.3 | 12.6 |
| 当初計画との乖離額 | 10.7 | 17.5 | 6.7 | 10.8 |